

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防(通常砂防)		路河川名等	(砂)裏沢		
事業毎の通番	7	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	山新田(やましんでん)	
事業目的	裏沢は土石流危険渓流であり、下流の土石流氾濫区域内には特別養護老人ホーム、公民館の重要公共施設が存在し、保全対象人家も168戸と多数存在する。本溪流には過去の出水による河床堆積物が多く堆積し、また山腹には倒木等も多く存在しているため、降雨時には土石流が発生し、下流に多大な被害をもたらす危険性がある。上流に砂防堰堤を施工することにより、土石流による被害を防止し、民生の安定を図るものである。					
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家168戸、ユートピア若穂(要配慮者利用施設)、山新田公会堂(避難所)、市道 森山新田線					
着手年度	H29	事業期間	5年	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	H33	費用対効果	7.97	国庫	275,000	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 2基			その他	247,500	
年度事業内容(主な工種)	用地補償、砂防堰堤工			県債	27,500	
				一般財源	7,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家:168戸 公共施設:4戸 公共施設(山新田公会堂、ユートピア若穂)				
	間接的効果(定量的・定性的)					
評価の視点	必要性	【保全対象戸数】168戸 【保全公共施設】山新田公会堂(避難所)、市道 森山新田線 【要配慮者利用者施設】特別養護老人ホーム(重要施設) 【避難場所】山新田公会堂			評価	A
	重要性	【災害履歴】H1年7月10日の梅雨前線豪雨により土砂流出、H2年9月15日の台風19号豪雨により土砂流出 【交通影響】市道森山新田線 【位置付け】長野市地域防災計画に位置づけあり(土石流危険渓流、避難所)			評価	B
	効率性	【費用対効果】7.9 【早期効果発現】事業期間 5年 【工法等比較検討】堰堤型式比較検討 【総合調整】長野地方事務所林務課の治山事業と計画調整			評価	A
	緊急性	【地形地質】地質が脆弱(火山噴出物) 【流域植生】放置林 【平均渓床勾配・土砂整備率】勾配:7° 整備率:60% 【危険地区】土砂災害特別警戒区域指定(D15-201-004)			評価	A
	計画熟度	【情報共有】事業説明会にて関係者を中心に周知(H26.6.16) 【地域要望】地域から要望(H25.2.7) 【地域合意】事業説明会で事業目的及び整備手法について地域の合意形成が図られている(H26.6.16) 【住民参加】砂防等維持管理ボランティア活動支援事業の活用予定(H30.3)			評価	B
	部意見	当該渓流の保全対象には、人家多数の他、避難所、災害時要配慮者関連施設が含まれており、速やかな土砂災害対策が必要である。	行政改革課意見	流域内には不安定土砂や倒木が多数存在し、今後の降雨等により土砂流出の恐れがあり、保全対象に人家、要配慮者利用施設、村道、避難所があることから、必要性が高く、緊急性も認められる。	評価結果	○
				総合評価	A	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
現状の危険性:当溪流は第三紀変質玄武岩を主体とする地質で、流域面積0.67km²の土石流危険渓流Ⅰである。山腹には不安定な崖錐堆積物が多く存在し次期降雨により土砂が流出する可能性が高い。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり
土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定するにあたり、特別警戒区域に人家が存在することから事業の要望を受けている。

③事業説明等の経緯
過年度事業において、事業説明会等を開催し、地域の方々の意見を伺う中で事業に取り組んでいる。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連
—

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮
4号堰堤計画地周辺では、長野県レッドデータリストにおいて保全対象となっているコウモリの生息地があり、モニタリングを行いながら工事を実施する予定である(詳細は調整中)。

⑥地域活性化への影響と配慮
砂防事業により人家及び避難所、要配慮者利用施設が保全され地域の安全が向上され地域防災力の向上が期待される。

⑦その他
—

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 36° 36' 24"
東経:E 138° 17' 28"